

東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム
「ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム(GCL)」
コース履修申請書 [平成 27 (2015) 年博士編入用]

1. 申請者情報

(フリガナ) 氏 名		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
国 籍	生年月日(西暦)	
郵便番号・現住所		
携帯電話番号またはそれに代わる電話番号:		
E-mail		

所属専攻	研究科			
	専攻			
入進学 年・月		ID カード学生番号		
指導教員氏名				
GCL に参加することについて、指導教員の同意を得ていますか <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ				
奨学金等受給の有無 [※]	名称			
	期間		月額	

※ <http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp/courses/features/> を参照のこと

面接は原則として 2015 年 4 月 27 日 (月) に行います。特段の理由で 4 月 27 日の面接ができない場合は、「不可」にチェックを入れて、理由を書いてください。その場合、別途指定する日に面接を行います。

面接日 2015 年 4 月 27 日 (月)	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可	不可の場合、その理由
--	---	------------

2. 学歴、職歴、GCL への参加

学歴（大学入学以降）	
職歴（期間、所属、職名、主な職務、インターンシップ等を含む）	
GCL への参加履歴	
申請者氏名	

別紙作成のもの

以下の 3～6 は、別紙に作成し、記入済みの本申請書（ただしこのページは提出しなくてよい）とあわせてクリップでとめて提出すること。

3. 学業成果

A4 用紙1 ページ以内で、以下の点について簡潔に記述してください。修士課程等で学習した基礎専門知識と学業の成果について述べてください。修士論文の題目及び概要、研究発表リストを含めてください。在職中の研究成果について述べても構いません。また、受賞・プロジェクト獲得などの特筆すべき成果を有している場合には、それについても述べてください。また、主たる専門分野以外の関連分野での単位取得やセミナー等参加など、社会イノベーションプロジェクトに活かされうる学業経験を有している場合は、それについても述べてください。

4. 社会経験

A4 用紙1 ページ以内で、以下の点について簡潔に記述してください。在職中・インターンシップ・ボランティア活動・企業との共同研究等における社会経験について述べてください。そこで得た経験や知識が、社会イノベーションプロジェクトの立案・実施にどのように活かされると期待しているか、説明してください。また、海外留学、自主的なグループ活動の企画・運営など、社会イノベーションプロジェクトに活かされうる経験を有している場合には、それについても述べてください。

5. 社会イノベーションプロジェクト計画

(1) A4 用紙2 ページ以内で、社会イノベーションプロジェクトの計画を述べてください。その際、①計画のタイトル、②計画の背景となる社会情勢・課題等の現状、③提案等の概要（どのような社会イノベーションを目指すか、どのような先端 ICT 技術を活用または新規開発するか）、④提案の競争力（着眼点の独自性、問題解決の鍵となるアイデアなど）、⑤プロジェクト等の推進計画、⑥必要資金の見積・その獲得へ向けての計画、⑦プロジェクト等の準備状況（いつごろ開始できるかの見込みを含む）、について論点を整理して述べてください。

(2) 次ページの様式 A により、プロジェクトを実施するチーム構成（または個人）を記述してください。

(3) A4 用紙1 ページで、計画書の要点をビジュアルにまとめたものを作成してください。

なお、関連する報告書、競争的資金、費用の見積などについて参考資料を添付することもできます。また、本プロジェクトが博士論文の主題となることを考慮して記述してください。なお、評価においては、募集要項の「本プログラムの概要」に記されている下記の内容にふさわしいかどうかを考慮されます。

情報通信技術 (ICT) が世界中の人と事物を複雑に結び、急速に変動する未経験の社会経済システムが出現する中で、次々と発生する新たな問題や可能性を捉え、人々に価値あるソリューションを創造し実現する変革が強く求められている。

本プログラムでは、修士から博士後期課程までの一貫した教育課程により、ビッグデータ、複雑システム、ヒューマンシステムの先端 ICT を基軸とし、複数専門分野を統合して、社会の喫緊の課題を解決し、あるいは新たな価値をもたらす知識社会経済システムを創造的にデザインし、社会的イノベーションを先導するトップリーダーとチームを育成する。

6. GCL での活動計画 (オプション)

A4 用紙1 ページ以内で、以下の点について簡潔に記述してください。①社会イノベーションプロジェクト推進に当たって、助言や協力を得たいと思うプログラム担当者を5名まで、理由とともに挙げてください。②グローバルデザインワークショップの企画など、GCL での活動の計画を述べてください。（本紙はオプションで、必ずしも提出する必要はありませんが、提出すれば内容は参照されます。なお、①で挙げられたプログラム担当者の社会イノベーションプロジェクトへの参加や協力の可否はさまざまな事情を勘案して慎重に判断しますので、一概に協力が得られるというものではないことをあらかじめご了承ください。）

注：プログラム担当者は <http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp/courses/instructors/> を参照のこと。

様式A

社会イノベーションプロジェクト計画 チーム構成

	氏名	所属	職／学年	現在の専門分野	プロジェクトでの役割
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
合計	名				

- ・1行目に申請者自身を記入すること。申請者ひとりで実施する場合も本様式を提出すること。
- ・2行目以降は、必ず本人の承諾を得て記入すること。GCL外でもよい。
- ・欄が余る場合は空白のままよい。欄が不足する場合は、最も重要な8名を選んで記入すること。
- ・メンバーの一部が未確定でもよい。その場合は、「氏名」欄は「未定」、「所属」「職／学年」欄は空白、「現在の専門分野」「プロジェクトの役割」欄はそれぞれ想定される専門分野と役割を記入すること。